

「そして」/「それから」の一考察

日 景 由 貴

1. はじめに

私達は、言葉が何も支障なく通じている時には、誰も言葉に対して反省などしないものである。そのため、外国人に日本語について、思いもよらない質問をされ、答えられないという場合もあるだろう。そういった質問の1つとして、今回「そして」と「それから」の使い分けについて考えてみようと思う。国広(1996)の中で、「類義語の意味の違いを求めて国語辞典に当たった場合、うまく解答が得られることもあるがはっきりしないこともある。」とあるが、本稿でも最初に、いくつかの国語辞典の記述を示してから考察をしていく。辞書名には略号を用いるが、略号解は論文の末尾に示す。また、論文中の表示のない用例は作例である。

2. 辞書における記述

「そして」「それから」は共に、ある事柄に続いてもう1つの事柄がおこる時に用いる語であるが、国語辞典ではどのように記述され、区別されているのだろうか。

【三省堂】

そして (接続) 前のことばを受け、(何かをつけ加えて) あとへ続ける

ときのことば。そして。

それから (接続) ①その次に。そして。 ②そのことがあってから。
(名) そのあと

【広辞苑】

そして (接続) そうして。その上。

それから (接続) その次に。その後。

【集英社】

そして ①先に述べた事柄より時間的, 段階的にあとになる事柄
を並列的に続ける意を表す。そして。それから。
②ことばを並べる際のつなぎの語。および。それに。か
つ。

それから ①そして。そのあとで。そのうえで。
②そして。それに。

また、「そして」の項に『「そして」のつづまった語, 口語形』としか記述していない辞書もあったので、「そして」と「それから」を比較してみる。

【新明解】

そして (接続) ①そのようなことをしたのに引き続いて (手段・方法をとって) 何かが行われることを表す。
②前の表現をうけて, そのままそれに付け加えて述べようとする話し手の意図を表す。そして。

それから (接続) ①その次に (は)。そして。 ②そのあと。それ以来。

【学研国】

そして (連語) ①前にのべた手段・方法によって何かが行われる意。
そのようにして。そうやって。

- (接続) ② 1) 前に述べた動作・状態を受けて、その後次に次の動作・状態がおこる意を表す。そして。それから。
2) 前に述べたことにつけ加えて、述べる意を表す。
それから。そして。

- それから (接続) ①前の事柄に続いて、後の事柄がおこる意を表す。それに続いてその次に。その後。それ以来。そして。
②ある事柄に他の事柄を付加する意。それに加え。
そして。また。

『学研国』の「そして」の①の連語としての用法は、ここでは扱わず接続詞のみを扱い、「それから」と比較していきたいと思う。また「それからが大変だった。」「それからの日々をすごしました。」といった「それから」の名詞的用法も除く。上記に見られる両語の意味記述は、どの辞書も似たようなかんじではっきりしない。特に『三省堂』と『集英社』は、ただ両語を言い換えただけである。また、下記のいずれの文も「それから」を「そして」に変えれば正しい文となる。「それから」に「そのとき、そこで」の意はなく、「それから」は「そして」より用法が制限されていると言える。

- ・ 京都に2日いました。それから、金閣寺などの寺を見ました。
- ・ 一生懸命、勉強しました。それから、大学に合格しました。
- ・ 広くて、それから明るい部屋がいい。

ここまででは、「そして」「それから」はともに、並べられた語や文を結合する働きをするということがわかる。次に、これらを前後を「並列」の関係でつなぐ場合と、前のものに「追加」する場合にわけて見ていきたいと思う。

3.1. 並列的用法

3.1.1. 《行為・作用・状態の順序》

- (1) 前菜を食べて、スープを飲みます。{そして/それから}肉を食べます。
- (2) 今日は、午前中に銀行に行って、{そして/それから}大学に行きます。

上の両語は共に順序を表しているが、「そして」の場合は「次に」というほどの意であるが、「それから」を使うと「肉を食べる前に前菜とスープ」というように、事の順番がより強調される。それは次のように、順序を表す副詞と共に用いるとより顕著にわかる。

- (3) SKD の踊り手たちは、最初に自分の名前を名乗り、それから何かパーソナルなおしゃべりをして、最後をドライバーへの呼びかけでしめくくるという約束だった。 (五木寛之『風に吹かれて』新潮社)

次のような動詞文ではどうであろうか。

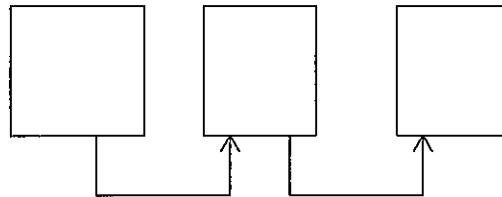
- (4) 勤めの帰りにデパートに寄った。{そして/*それから} これを見つけたのです。 (『新明解』)
- (5) 京都に2日いました。{そして/*それから} 金閣寺などの寺を見ました。

(5)の「京都にいた」ことと「寺を見た」ことは同時のことで継起することではない。そのため「それから」は、使うことはできない。(4)も同様に、「それから」が使われると「これ」はデパートではなく、ちがう場所で見つけたことになる。つまり「それから」には「そのとき・そこで」という意はないようである。

「それから」はもともと、「それ—から」つまり前に述べた事柄から次の事柄へと視点を移すことである。また「—から」という語が含まれているため、

「離れる」「移って行く」というニュアンスがある。森田(1980)によると、「それから」という語の意味が次のような図で示されている。

図1 <それから>



上の図に私なりに付け加えると、「それから」によって、単に事柄から事柄へと視点に移されるだけでなく、その事柄1つ1つが個々に独立したものとして見なされているのではないかということである。

- (6) 一生懸命、勉強をしました。{そして/*それから} 大学に合格しました。
- (7) 毎晩遅くまで働いた。{そして/*それから} とうとう病気になってしまった。
- (8) 彼らは、長い間調査を続け、{そして/*それから} 古代の遺跡を発見した。

上の3つの例も、原因・結果というかたちで順序を表しているのに、どうして「それから」は用いることができないのだろうか。これは、前に述べた事柄と後に述べた事柄を別々の独立したものとしてとらえられていないからである。つまり「勉強した」と「合格した」ことは、原因・結果という、強いつながりや結びつき、関連があるため「それから」は使うことができないのである。

- (9) マダムが微笑して、ちょっと踊りの手つきをする。そして、お互いに笑いあう。(前掲 五木寛之)
- (10) 私は、やはり読んでみたかったです。そして、封を切りました。

(前掲 宮本輝)

(9)の用例では、「マダムが踊りの手つきを」したことによって、「お互いに笑いあ」ったのである。「そして」を「それから」に入れ替えると、別のことで笑っているように感じる。(10)では「読んでみたかった」から「封を切」ったのであって、「それから」と入れ替えることはできない。

(11) あの夏の初めの午後の一刻は、私にとって、とても貴重なものだった。
そして、それを書かずにいられないのが物書きの哀しい性なのかもしれない。
(前掲 五木寛之)

(12) この街において、私はまぎれもない異邦人であり、よそもんとして遇
されていた。そして、私はそれが嫌いではなかった。(前掲 五木寛之)

(11)、(12)ともに「そして」を「それから」と入れ替えると、文が繋がらない。これは「そして」の後にくる叙述の中の「それ」が、「そして」の前にある事柄を示すからであり、「そして」をはさむ前後の事柄には結びつきが見られる。

(13) 亜紀は別の男の妻となり、母親となった。そして裕福で元気そうだ。
(前掲 宮本輝)

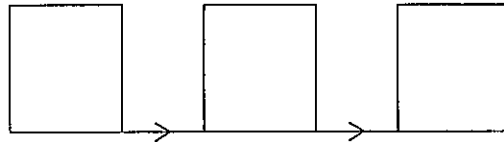
(14) 私は、蒲団の上に座り、煙草をすいました。そして、ぼつんと残された
ねずみのしっぽを見ていました。
(前掲 宮本輝)

(15) 戦中から戦後、そして今もなおしばしば私の胸中を去来する絶唱はこ
の歌詞である。
(前掲 五木寛之)

上の例をそれぞれ「それから」と入れ替えたらどうなるであろうか。(13)の用例では「妻となり母親となった」ため「裕福で元気そう」なのに対し、「それから」と入れ替えると「妻になり、母親となった」こととは関係なく、「裕福で元気そう」に感じる。また、(14)では「煙草をすい」ながら「ねずみのしっ

ぽを見ていた」のに対し、「それから」と入れ替えると「煙草をすって」から「ねずみのしっぽを見ていた」ように感じる。(15)では「戦中—戦後—今」という一続きの時間的な連続を感じるが、「それから」と入れ替えると「戦中—戦後」と「今」というように関連のない別々なもののように感じる。このことから、「そして」は次のような図によって表せないだろうか。

図2 <そして>



「それから」が1つ1つに独立した事柄間の視点の移動を表すのに対して、「そして」は何らかの関連やつながりのある事柄を結びつける語なのである。

3.1.2. 《叙述を並べる》

- (16) 白くて、小さくて、{そして/*それから} 元気な子犬
- (17) 田中さんは大学生です。{そして/*それから} 彼の専門は経済です。
- (18) 広くて、{そして/*それから} 明るい部屋がいい。

上の例ではすべて「それから」を用いることは難しい。なぜなら、「そして」によって結合される2つの要素が同一対象について述べているという結びつきがあるからである。次の例のように、対象が異なる時は「それから」を用いても可能になる。

- (19) 白い子猫と、小さい子犬と、それから元気なうさぎを飼っている。
- (20) 田中さんは大学生です。それから、佐藤さんは専門学校生です。

「それから」を用いると修飾語からはずれて、他の対象へと視点が動いてしまう。そのため、別々の違った対象を並べるならば「それから」でも構わないのである。

(21) 川には三本の橋がかかっていた。東橋と旧橋と西橋だ。旧橋がいちばん古くて大きく、そして美しい。

(村上春樹『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』新潮社)

3.2. 追加的用法

(22) 英語, スペイン語, {そして/それから} 中国語が話せます。

「そして」より「それから」を使うと、「さらに」といった追加する意識がよりはっきりする。

(23) えんぴつ, けしごむ, それから ノートがほしい。 (『学研国』)

(24) コーヒー 3つ, それから 紅茶を 2つ。 (『岩波国』)

(25) この薪や石炭は森でとれる。それからきのこやお茶やそういった種類の食料も森でとれる。 (前掲 村上春樹)

また, 思い出して付け加える場合にも使われる。

(26) ちょっと紙を買ってきて下さい。それから インキも。

(『基本語用例辞典』)

また動詞文での「それから」は, 動作の順番を示す用法と追加的用法のどちらともとれる場合があるが, 「も」がつくと, 追加の意が強くなる。

(27) 歌を歌った。それから ダンスを / もした。

「それから」は, 図 1 で示したように個々に独立した事柄間の視点の移動を表すため, 新たな独立した事柄を付加するのに「それから」が使われる。それでは, 追加的用法において「そして」と「それから」は, どのように違い

があるのだろうか。

(23) えんぴつ, けしごむ, {そして/それから} ノートがほしい。

(24) コーヒー3つ, {そして/それから} 紅茶を2つ。

上の用例は「そして」「それから」ともに用いることができるが、意味が少し異なってくるような気がする。「それから」は独立した事柄間の視点の移動をともなうためにより追加的な意味あいが強くなって来るが、「そして」は叙述される事柄に何らかの関連やつながりがあり、全体が視野に入っていて最後のものという感じが含まれる。

(28) バスケットの中には、ピクニックのセットが入っていた。ナイフとフォーク、皿とカップ、そして変色して黄ばんでしまった白いナプキンが一セット、きちんと整理されて詰められていた。(前掲 村上春樹)

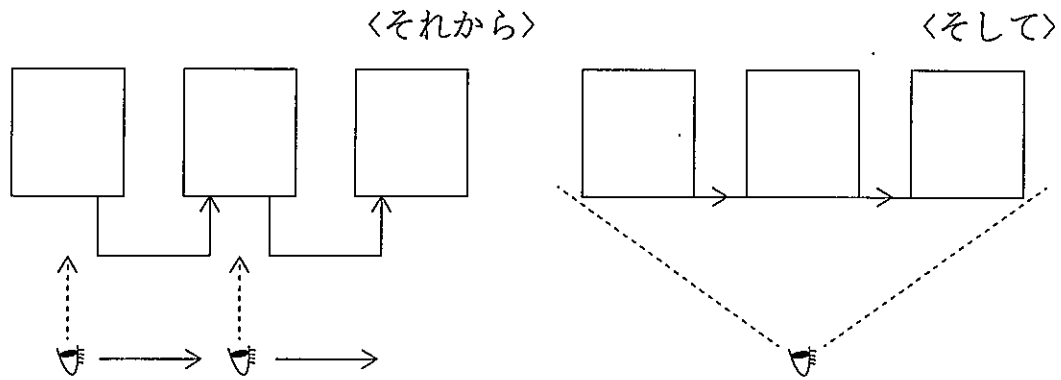
(29) それとともに関口とみ子という看護婦と専門の車夫を新たに採用した。これで荻野病院は医者一人に看護婦二名、下働きの男一人に女中一人、そして車夫と、医院として見劣りしない態勢になった。

(渡辺淳一『花埋み』新潮社)

(30) 社長と工員合わせて四人しかいなかった。つまり、社名のとおり横内兄弟の兄の方が社長で弟が工場長、そして社員が二人という陣容なのである。(椎名誠『新橋烏森口青春篇』新潮社)

図で示すと次のようになる。

図 3



4. さいごに

以上のように「そして」「それから」を並列的用法、追加的用法にわけ、いくつかの用例を通して、「そして」「それから」が結びつける各事柄が独立したものであるか、各事柄間の視点の移動の有無によって使い分けられることを図を用いて見てきた。用例によっては並列的用法／追加的用法とはっきりわけられないものもあり、また、今回取り上げた用例は、数としてたいへん少ないので、より多くの用例を見ていくこともこれからの課題である。

【辞典名 略号解】

- 岩波国 西尾 実・岩淵悦太郎・水谷静夫『岩波国語辞典第5版』, 岩波書店, 1994.
 基本語用例辞典 『外国人のための基本語用例辞典 第2版』, 大蔵省印刷局, 1987.
 学研国 金田一春彦・池田弥三郎『学研国語大辞典 第2版』, 学習研究社, 1988.
 広辞苑 新村 出『広辞苑 第4版』, 岩波書店, 1991.
 三省堂 見坊豪紀『三省堂国語辞典 第4版』, 三省堂, 1992.
 集英社 森岡健二・徳川宗賢『集英社国語辞典 第1版』, 集英社, 1993.
 新明解 金田一京助『新明解国語辞典 第4版』, 三省堂, 1992.

【参考文献】

- 国広哲弥(1996) 「国語辞典と類義語」, 『人文研究』No. 127, 神奈川大学人文学会。
森田良行(1980) 『基礎日本語2』, 角川書店。